

【資料図表】 事故現場付近のロードキル件数と浸入防止対策

1999年から2004年の事故現場付近におけるロードキル件数（苫小牧東IC～苫小牧西IC）

（キツネの件数が減ったように見えるが総数は変わらない。エヒノコックスによるキツネの一時的な減少と動物研究者談）

表1 道央道苫小牧東IC～苫小牧西IC間における動物の交通事故件数（カッコ内は%）

年	キツネ	タヌキ	シカ	その他	合計
1999	25 (48.0)	26	0	1	52
2000	34 (72.3)	8	1	3	47
2001	69 (77.5)	14	1	5	89
2002	53 (77.9)	8	0	7	68
2003	28 (60.8)	15	0	3	46
2004	15 (25.0)	36	3	6	60

道路公団資料による

下記は道央道苫小牧東IC～苫小牧西ICにおける改良前（図1）と2002年の改良後（図2）の動物侵入防止策である。せっかく改良したが地面を掘る中小動物（キツネや狸等）にはまったく役に立たない柵である。

（図1）

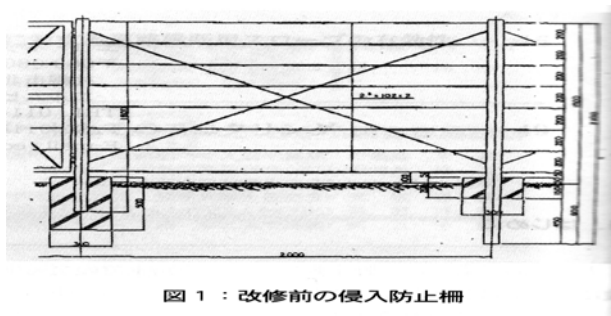


図1：改修前の侵入防止柵

（図2）

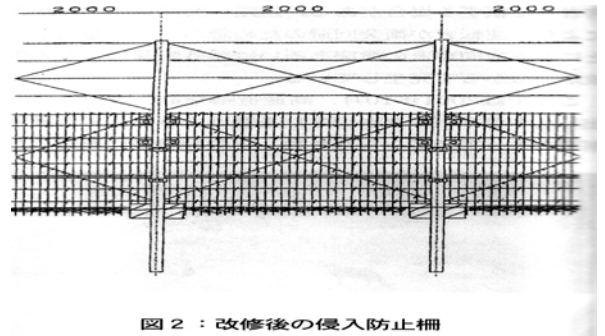
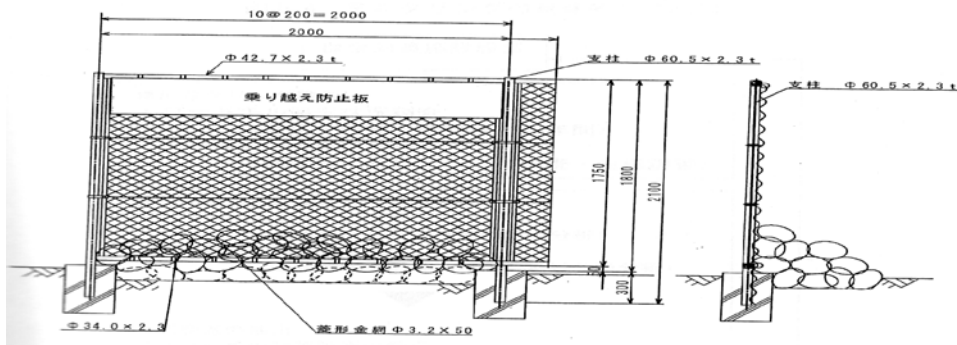
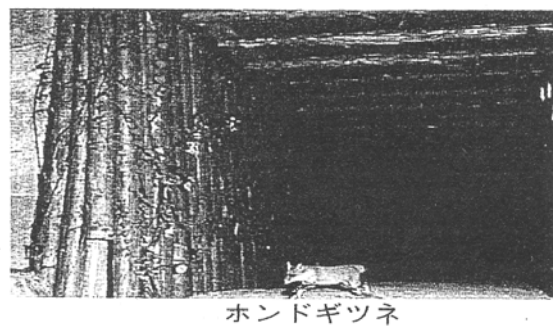
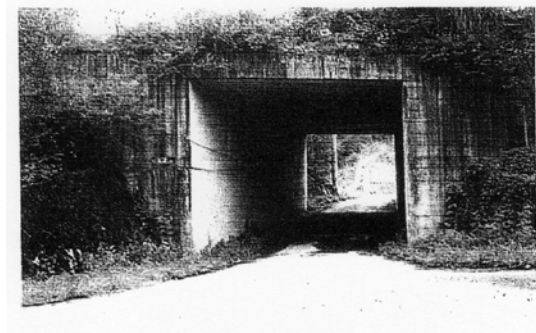


図2：改修後の侵入防止柵

進入防止柵の提案図



地面を掘る動物対策として上記のように柵の下部に碎石を埋める、あるいはL字型の障害板を埋め込む等考えられているが、1989年作成の旧公団資料にはすでに上記と同様の方法が記載されている。旧公団は多額のお金をかけ役に立たない工事をした事になる。事前調査に欠けていたからと考えられる。尚、宮崎自動車道ではトタン板埋め込みを行っている。



ホンドギツネ

上記左は日光宇都宮道路の動物横断路（ボックスカルバート）。トンネル下部は自然石や草地にし、周囲には誘導路を設けるなどの方法がある。右は国道108号のボックスカルバート。キツネ、狸、ウサギ、カモシカ等が横断している。これらは分断された動物の生息域をつなぐ役目をもつ。他にも様々な方法が考えられている。